

## なごみ

平成二十七年一月 題字 周防 和衛

皆様への感謝を込めて

インドネシアへの帰国を迎えて、  
ヘルキナール・シナガ

二十二年一月十六日に宝塚ちどりに入社しました。入社当初、日本語は挨拶ぐらいしか話せず、不安な事が多かったことを記憶しています。

仕事では、どうぞ利用者に対応すればよいかなど、言葉がわからない中で、日々戸惑いながらも一生懸命だったのだと、今振り返ると思います。

そのような状況でしたが、職員の皆さんが優しく、日本語や日本の文化を丁寧に教えてくれて、本当に心の支えになりました。

介護福祉士国家試験の受験では、多くの方々の応援に「私も頑張っていました。その結果、合格することができました。」と強く思い

日本人の友達もいっぱいできて、帰国するのは本当に寂しいです。また、日本は食事がおいしく、環境もすばらしいと思います。日本に、宝塚ちどりに来ることができ本当に幸せでした。

帰国後は家族のために時間を使いたいと考えています。皆さんもお体に気をつけて元気で過ごしてください。お世話になりました。ありがとうございます！

ヘジュリヤティ

平成二十一年十一月十二日に日本に来て、二か月間富士箱根ランドで日本語を勉強しました。

宝塚ちどりでは、日本語や介護福祉士勉強をしながら仕事をしました。

平成二十五年一月、介護福祉士の国家試験を受けました。自己採点をして合格ライン上の点数であったた

め、ドキドキしながら結果を待ちました。三月二十八日に試験結果が出て、合格したと聞いた時は嬉しくて涙が出るほど喜びました（実際に涙を流しました）。皆さんのおかげで私は合格する事が出来ました。

合格した後に祝賀会をしてくれて、宝塚市長も祝福に来て下さり、支援してくれた日本語講師の先生や職員もたくさん参加してくれて本当に嬉しかったです。皆さんから、「合格したら勉強が終了になるのではなく、もっと仕事ができるように頭の中で考えながら行動しなくてはいけない」と、介護福祉士として、宝塚ちどりの職員としての心構えを教えてくださいました。

四月に、「介護福祉士候補者」から「正職員」になり、不安な事がもっと増えました。今までの三年間の仕事ではまだまだ足りないと、「職員になつて、何をしなければならぬか。何を出来なければならぬか」と悩みま



した。ご利用者に変化があった時、ご家族と話をするのもまだまだ自信がなく不安でした。でもリーダーやサプリーダー、他の職員からサポートしてもらいながら、一つ一つ仕事も教えて貰いました。少しずつパソコンでの日誌の作り方などの勉強もはじめ、毎日ユニットの職員に聞きながら文章を作成しました。「この言葉は正しいですか？」この使い方であっていますか？」など相談しました。日本語の文法は難しいので、困りました。皆さんがチェックしてくれ、少しずつ分かってきました。

六月には夜勤業務を始めました。夜間帯は一人で対応する時間があり、すぐ怖くて不安な気持ちになりました。職員になって嬉しい反面、まだまだできていない部分も多くあることに気づき、また少し悩みました。「やりたい事が出来たらいいな」「もっと日本人みたいになんでも仕事ができたらいいな」と自分自身のふがいなさに怒る事がありました。言いたいこと、書きたいこと、伝え

たい事など、表現がなかなかできない。私はインドネシア人なのでやっぱり日本語がまだまだ上手ではない。ご利用者の様子をご家族様に伝えたいけど、難しくできない。リーダーに相談し、色々な方法を教えてもらいました。尊敬語は難しいので普段使う言葉でも大丈夫と言われたので少し安心しました。勇気を出して少しずつご家族と話をするようになり、またご家族も、私のたどたどしい日本語での話を、しっかりと汲み取って聞いていただくことができ、本当にうれしかったです。

平成二十六年の夏には、宝塚ちどりの一大イベントである「納涼祭」を、実行委員として担当しました。いろいろな方と連携し準備を進めていくことは非常に難しかったです。自分自身にとって大きな学びとなりました。インドネシア料理の店舗を任せ、食材や機材、その他物品の調達の他、ご利用者向けに味を考えたりと、今まで行っていなかった仕事をすることができました。

話が長くなってしまいましたが、日本で働いて本当に良かったと思います。皆さんに感謝します。日本が本当は好きになりました。日本を離れるのは辛いけど、家族のもとへ帰らないといけません。日本で学んだ事は国に持って帰りたいと思います。日本は自分の中で二番目の国と思っています。一生日本の事は忘れません。皆さん五年間本当にお世話になりました。本当にありがとうございます。介護の仕事は大変だと思います、体に気を付けて下さい。インドネ

シアに帰って私も仕事を頑張りたいと思います。いつか必ず日本に遊びに来ます。「さようなら」と言わないで、又会いましょう！



## ■ユニット報告

### ◇桜台・雲雀丘ユニット

雲雀丘ユニットでのちょっとした変化についてご紹介いたします。

以前は食事場所を二つのテーブルを付けた状態で囲んで召し上がっていただいていた。しかし、リクライニング式の車いすが増えたということもあり、ご利用者間のスペースが狭くなり、圧迫感を感じるではないかと考え、新しく写真のように食事場所の配置を変更しました。

変更した事により以前に比べてスペースが生まれ、車いすを通る度にご利用者にスペースを開けてもらう必要もなくなり動線上もスムーズになりました。

ユニットで生活する上でリビングはご利用者にとって他のご利用者との交流の場であり、また憩いの場所でもあります。これが



からも職員一同、ご利用者にとって気持ち良い毎日を通じて頂けるような生活空間を提供できればと考えております。(村田)

### ◇グループホーム

十二月二十一日にクリスマス会兼忘年会パーティーを開催しました。

食事はフレンチのフルコース。前菜のカルパッチョ、南瓜スープ、牛肉の赤ワイン煮込み、スパシャルデザートをご用意しました。

コミュニティルームをクリスマス一色のレストランに模様替えをし、皆様をご案内しました。ご利用者の皆様の第一声は「わー凄いですね」でした。各席にはネームプレートを設置し「私はここです」と、ニコニコ笑いながらお席を探される方もおられました。お席について「何が出てくるのだろう」と皆様盛り上がりま

ているところ



ずはシャンメリーで乾杯。その後、前菜から順にコース形式でお料理をお出ししました。

「美味しい」「おしやれですね」「こんなお店に来たのは初めてです」などのお声が聴かれました。

全て職員の手作りだということをお伝えすると「えー、この料理が手作りですか」「このソースは美味しい」など、うれしいお言葉をいただきました。(阪上)

## ■委員会報告

### ◇地域交流委員会

一月十日(土)に末成小学校で開催された「どんど祭り」に、二名のご利用者をご案内し、無病息災をお祈りしました。どんど焼きが始まると「わあ、すごい燃えているわね」「毎年やってたわ」と、思いつく話をしながら楽しんでおられました。どんど祭りでは、ぜんざいのふるま



いもあり、「身体があつたまるわ」甘くておいしいわね」等美味しそうに召し上がられていました。(安藤)

◇給食委員会

先月号でお伝えしました「クリスマスデコレーションケーキコンテスト」の結果発表です。

飾りつけを夢中に行われていたご利用者、また、いつもは行事やレクリエーションにあまり参加されないご利用者も、職員と共同でケーキにデコレーションをすると真剣な表情で取り組まれていました。

クリスマスケーキコンテストの結果、ご利用者作成部門の第一位は：



(写真上)ご利用者作成 写真下 職員作成

仁川・武庫川ユニット、職員作成部門の第一位は逆瀬川・星の荘ユニットという結果になりました。

投票をしていただいた皆様、ご協力ありがとうございました。(鎌倉)

◇感染症衛生委員会

宝塚市内においても、インフルエンザが流行しているため、各部署で加湿器(プラズマクラスター)を活用し、乾燥を防ぐとともに、定期的な換気を行うことを確認しました。

ご面会の際、入り口にマスクと手指消毒用のアルコールを設置しておりますのでご利用ください。(鎌倉)

◇サービス向上委員会

十二月の委員会では職員の腰痛対策について協議をしました。

腰痛予防のための介助方法の他、福祉機器の有効活用について検討しました。ご利用者を介助する上で、職員が健康であることも重要な要素の一つであることを再認識しました。

(濱野)

◇研修委員会

二月に、「看取り介護」施設内研修の開催を予定しています。

医務室より、看取り介護の目的や取り組みについての説明と、実際に看取り介護を行った資料を交えて、具体的な支援内容の事例発表を行います。その後、看取り介護についてグループワークを行い、意見交換をする予定です。

昨年同様、「看取り介護」についてその意義を考え、その思いを共有する場にしたいと考えます。

また、最期までその人らしく、過ごしていただくためには、どうすればよいかを改めて考える機会にし、日々のケアにいかしていけるよう努めていきます。(尾崎)

■編集後記

新年明けましておめでとございます。今年も宝塚ちどりの情報を、どんどん発信していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。(乾)

